



こんにちは、 岐教事です！

岐阜教育事務所だより

第3号

平成30年7月18日発行

◇ 学力向上推進会議（市町別全体会）をふりかえる ◇

6月から7月にかけて、岐阜地区全8市町において、第1回 学力向上推進会議（市町別全体会）を実施しました。会議は、平成27年度から始まり、4年目を迎えます。その趣旨は、新しい時代に求められる資質・能力を育成するために、教科を学ぶ意義を大切に、教科間・学校段階間のつながりを踏まえた指導を充実させ、地域の特色や各学校の強みを生かして、児童生徒一人一人に豊かな学びの実現を目指すことです。

今年度は、各学校の学力向上に係る実態や分析、指導改善プランに係る取組・実践についての提案、事例紹介、研究協議等を通して、自校の指導改善サイクルを一層効果的に機能させることを目的としています。本会議では、①指導改善サイクルを効果的に機能させるための改善方策、②学力向上に向けて全ての小・中・義務教育学校が共通して取り組む内容等について話し合い、決定事項をそれぞれの学校の教職員に発信することにしました。

右は、岐阜教育事務所から提案した指導改善の3つのポイントです。

ポイント①自己肯定感：「授業で子どもの自己肯定感を高める」こと

ポイント②家庭学習：「子どもに目的をもたせて、自己選択の場を設定する」こと

ポイント③話し合い活動：「考えが深まっていない3割の子への指導を充実する」こと

今年度は、すでに4カ月が経過しましたが、ご自身と自校の指導改善の現状を振り返っていただければと思います。

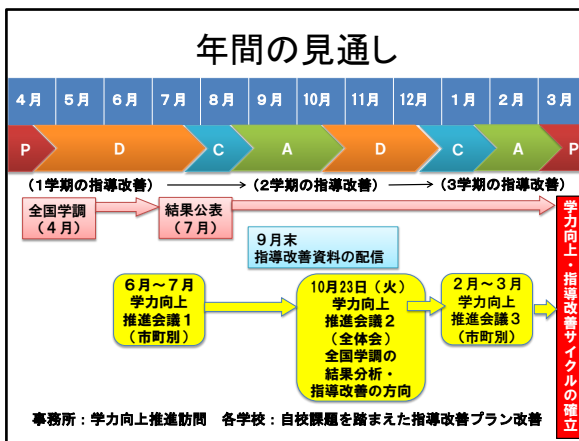
今年1年間の見通しについて、昨年度までとの大きな変更点を述べます。

**児童生徒の質問紙調査から見る
指導改善のポイント**

ポイント1
1 自己肯定感 授業でも高める

ポイント2
2 家庭学習 目的をもたせる

ポイント3
3 話し合い活動 3割の子(個)への指導を考える



まず、この学力向上推進会議の回数を、年4回から年3回へと減らし、スリム化を図っています。また、県の全体会・昨年度までの「指導改善説明会～学びに向かう力を育む会～」の今年度の実施はありません。そのため、「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果分析及び指導改善の方向については、10月23日、第2回の岐阜地区全体会にて、説明します。

さらに、今年度については、例年1月に実施していた県の学力・学習状況調査は行われません。

これまで、各学校では、自校の指導改善プランによる、1学期又は前期前半の指導改善に取り組まれていることと思います。

学力向上推進教師の方々は、管理職と連携を密にし、自校においてリーダーシップを発揮し、学習状況調査等結果分析から学力向上につながる指導改善のための方策を、全教職員が一丸となって取り組むことができるよう力を発揮してください。そして、各学校の自校課題を踏まえ、より実効性のある学力向上の取組と指導改善サイクルを確立し、児童生徒一人一人に豊かな学びを実現しましょう。

きれい！と光る すてきな実践を紹介します！

社会科の視点に 基づいた教材研究

社会科編



小学校第5学年「国土の気候の特色」の授業を参観しました。児童たちは、「日本は南北に細長い国であり、地域によって気候の違いが大きい。」「梅雨の影響を受けて、太平洋側は夏に降水量が多い。」等、社会科の言葉を駆使し、6つの気候の特色について追究しました。

このような姿が生まれた背景には、教師が「位置」「空間的な広がり」の中で様々な資料を比較・分類し、「地形」と「気候」の相互関係を明らかにした教材研究を行い、単元の中で身に付けるべき知識や概念を明確にして指導にあたってきたからです。

小学校の場合、全教科を指導するという特性から、社会科の教材研究だけに時間をさくことはなかなか難しいです。しかし、例えば、「どのような場所か」「どのように広がっているのか」等を問う視点や「なぜ始まったのか、どのように変わってきたか」等を問う視点、「どのようなつながりがあるか、なぜ協力が必要か」等を問う視点に基づいて教科書を分析するだけでも、「深い学び」の授業改善になるのではないのでしょうか。

夢中になって 運動に取り組む

保健体育編



中学校第1学年「バスケットボール」の授業を参観しました。相手が自陣に戻る前にシュートを打つために、攻め手を増やしてゴール下まで素早くボールを運ぶ方法を考える授業でした。

生徒が、ゲーム前に自分たちで作戦を立てる時には、一人一人の得意なプレーをゲームの中で生かして攻めていくことができるように役割を分担していました。ゲームを行っている時には、ボールを持っている時の動きと持っていない時の動きを声をかけ合いながら確認し、それぞれの役割を意識しながらゲームを進めていました。「コート状況、人の動き、ボールの流れ」といった視点をもってゲームを生徒が分析し、仲間の動きのよさを生かして作戦を立て、振り返りをして修正をする素晴らしい姿でした。

このように、ゲームを分析する視点を教師が与え、仲間とともに試行錯誤を繰り返すことの大切さを価値付けていく指導が、夢中になって運動に取り組む生徒の育成につながっていくと改めて感じた実践でした。

題材を通して 解決する課題を 設定する

家庭編



小学校第5学年「いためて作ろう 朝のおかず」の授業（第1時）を参観しました。まず、朝食の役割や大切さを理解するために、朝食に関わる実験映像を視聴しました。児童は、すぐに、気付いたことや分かったことを発言しました。「朝ごはんを食べないと集中力がなくなって、問題を間違いやしくなります。」「栄養によって体温の上がり方が違うから、どれもバランスよく食べた方がよいことが分かります。」教師は、児童の意見を板書にまとめると、「では、自分の朝食を振り返ってください。自分ができそうなことはありますか。」と問いかけました。児童は、朝食調べを記入したワークシートを見つめ、じっと考えた後、黙々と自分のやるべきことを書き、次時の学習や家庭でやりたいことを語りました。児童が、生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を自覚し設定することを大切にしたい実践でした。